

インドネシア大統領選挙～庶民の声

中川 智明

今回は、インドネシアの大統領選挙について、弊社職員の雰囲気やコメント、街の雰囲気をお伝えしたいと思います。日本の新聞にも多少は記事が掲載されていると思いますが、ジャカルタで生活していて感じたインドネシアの庶民の声について記載させていただきます。

<インドネシアの大統領選挙>

4月17日のインドネシアの総選挙では、大統領、国民代表議会、地域代表議会と地域国民代表議会の議員をすべて決めます。日本で言えば首相指名選挙、衆参両院ダブル選挙と地方議会選挙を同日にやるようなものです。ですので、その盛り上がりはかなりのものとなります。

<ジャカルタで働くインドネシア人の持つ印象>

ジャカルタで働く中間層以上の人たちにとっては、大統領選挙はそこまで熱くなる対象ではないようです。むしろ選挙自体に対してよりも、その前後の治安状態に関して気にしているようです。

日本人にはピンとこないかもしれませんが、ほんの20年少し前の1998年にジャカルタ暴動が起きました。30年間続いたスハルト独裁政権への国民の不満が暴動に発展したものです。ジャカルタから地方へ飛び火した騒乱の標的は「政権と癒着し経済を支配している」とみなされた華人でした。政権に抗議する人々の矛先は「人口の3%なのに富の7割を握っている」とされた華人に向かい、千人以上の中華系市民が意味も無く殺されたと言われています。

この記憶は私の周りのインドネシア市民にも今も鮮明に残っており、前回の大統領選挙でもそうですが、今回も「何か暴動のようなことが起こるのではないか？」と思わずにはいられなかったようです。基本的に、このような政治に関する想いはそう簡単に話をしない彼らですが、ある程度仲良くなってくると自分から話

を始めることがあります。「俺はインドネシアを出国する準備をしている」とか、「オーストラリアに親戚がいるのでそこに避難する準備がある」というような話を聞いたことがあります。20年以上前のことですが、未だに明確な対応策を持ち続けているくらい現実的なようで驚かされます。

<今後の成長のためにも、個人的な思い>

つい最近、地下鉄が開通するなど発展が著しいインドネシアですが、少し前はこのような暴動があったくらいですので、やはりまだまだ発展途上であると感じます。発展途上であるからこそ、成長が著しくチャンスがあるのですが、もちろん平和が無いと成長もありませんので、このような悲劇は絶対に起こってはいけないことだと思います。評論家のようなコメントで大変恐縮ですが、「インドネシアの人々が鮮明に記憶を持っていることが、再発を防止してくれるのでは」と感じてしまうのも事実です。

おおらかで明るくやさしいインドネシア人は、20年前から人としても成長して来ました。今回の大統領選挙戦の前後の状況でインドネシア人の成熟度はもちろんのこと、インドネシアの国としての成熟度が明らかになると思います。この記事が掲載されるころには選挙も終わっていますが、私はインドネシアを信じています。

